

Cisco Unified Communications Manager の SQL インジェクション

Medium	アドバイザリーID : cisco-sa-20080213-cucmsql	CVE-2008-0026
m	初公開日 : 2008-02-13 16:00	0026
	バージョン 1.2 : Final	
	CVSSスコア : 4.0	
	回避策 : Yes	
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified Communications Manager は admin およびユーザインターフェイス ページのパラメータ キーの SQL インジェクション 攻撃に脆弱です。不正侵入の成功はデータベースで保存されるユーザ名 および パスワードのようなアクセス情報にハッシュします認証された攻撃者を可能にする可能性があります。

シスコはこの脆弱性に対処するソフトウェア アップデートをリリースしました。

よくある脆弱性および公開 (CVE) 識別子 [CVE-2008-0026](#) は この脆弱性に割り当てられました。

このアドバイザリーは <http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20080213-cucmsql> で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

6.1(1a) 以前の 5.1(3a) および 6.0/6.1 バージョン以前の Cisco Unified 通信マネージャ 5.0/5.1 バージョンはこの脆弱性から影響を受けます。

CallManager または Unified Communications Manager システムのソフトウェア バージョンを調べるには、管理インターフェイスで **Show > Software** の順に選択します。

Unified Communications Manager の場合、ソフトウェア バージョンはまた Command Line

Interface (CLI) の show version アクティブなコマンドの実行によって判別することができます。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

5.0 前の Cisco Unified CallManager または統合された通信マネージャ システムはこの脆弱性から影響を受けません。 3.x および 4.x リリースは脆弱ではありません。

この脆弱性に該当するその他の Cisco 製品は現在のところ見つかりません。

改訂履歴

リビジョン 1.2	2008-April-22	CVSS CSCsk64286 の更新済 URL。
リビジョン 1.1	2008-April-03	不正利用事例と公式発表の下の Secunia およびセキュリティフォーカス参照への追加されたリンク
リビジョン 1.0	2008-February-13	初回公開リリース

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。